

## ■はじめに

奈良で毎年行われている正倉院展が、今年、東京でも開かれました。天皇のご即位を記念した特別展で「正倉院の世界 一皇室がまもり伝えた美」という正倉院宝物と法隆寺献納宝物の代表的な宝物 110 点あまりを公開した展覧会でした。この展覧会の入口と出口には、森鷗外の『奈良五十首』の中の次の一首がそれぞれ掲げられていました。



「勅封の 笄(たかな)の皮 切りほどく 剃刀(はさみ)の音の 寒さあかつき」(入口に掲示)

「ゆめの国 燃ゆべきものの 燃えぬ国 木の校倉の とはに立つ国」(出口に掲示)

正倉院宝物をはじめ、歴史的な遺産を守り、受け継いできた奈良に感嘆し、それをなんとかして未来に伝えていきたいという、鷗外の願いと決意が伝わってきます。

## ■奈良市の世界遺産学習が育む学び

### ① 思いが行動に

10月31日、沖縄県那覇市にある世界遺産「首里城跡」に復元された「正殿」など7棟が全焼しました。これを受けて、平城東中学校と二名中学校の生徒会では、首里城復興のための募金活動を行い、先日、平城東中学校の生徒会役員の生徒が募金を持ってきました。生徒会では、ニュースで首里城が焼け落ちる映像の中で、地元の人たちがとても悲しんでいたの、自分たちが毎年修学旅行でお世話になっている沖縄の人たちに何かできないかと思い、募金活動をすることにした、といます。心に感じることと行動することが一致することが素晴らしいと思いました。

### ② 世界遺産学習を学んだ子たち



令和2年2月、世界遺産学習の全国サミットが奈良市で開かれます。2日目には、「世界遺産学習」を学んだ子が、現在の自分のキャリアに「世界遺産学習」がどう影響を与えたのか、というところにもスポットを当てようと、奈良市立の学校を卒業されたOGの方にも参加してもらい、子供たちとのセッションも企画しています。その2月の

サミットでゲストに来てくれる一人は、世界遺産学習を受けて、「奈良には素晴らしいものがたくさんあり、それは大切に守られ、残されてきたということを知った。奈良と同じように日本全国にも、また世界中にも、それぞれの地域に素晴らしいものがあるはずだ。それを多くの人に知ってもらいたい」と語ってくれました。それぞれの学校で子供たちのきっかけとなる学び作りをしてもらい、「奈良で学んだことを誇らしげに語れる子」を育ててほしいです。

## ■奈良で学んだことを誇らしげに語れる子

明治5（1872）年、文化財保護の原点とも言われている寺社の宝物調査が行われました。この時に、当時の文部省から調査に参加したのが、蜷川式胤（にながわ のりたね）で、彼は、その調査の記録として『奈良の筋道』を記しました。そのなかで彼は、「地元の人たちは、他からやってきた人とわかれば、誇らしげに昔のことを話してくれる。自分たちが代々住まう土地の事を尊ぶ気風が今日の文化財を保護することにつながっている。」と記しています。



昔から奈良の人は、日頃からのお参りや、祭りなどの行事に参加する機会が多くあって、毎日の暮らしの中に、社寺を身近に感じる機会が備わっていたのだらうと思います。常日頃から、本物に触れ、肌で感じ、深く知る。そんな生活をしているからこそ、誇りに思ったり敬ったりする気持ちがあったのでしょう。だからこそ、どの人も奈良の事について誇らしげに語ることができたのです。

奈良に残った世界遺産を始めとする伝統や文化は、それを大切に思い、誇りに思ってきた人たちが守り伝えて今日あるのだということを、しっかりと子どもたちに伝えていかなくてはなりません。

## ■奈良の世界遺産学習の充実を



私はこれまでも、森鷗外や蜷川式胤の話だけでなく、奈良にある素晴らしい文化財や伝統を守り、受け継いできた数多くの人々の話を取り上げてきました。こういった人々は奈良で受け継がれてきたものに感嘆し、それを、何とかして未来に伝えていきたいという願いと決意をもっていました。それが、今、私たちの目の前にある、文化財や行事です。

世界遺産学習を通じて、子供たちが、「なぜ残そうとしたのか」や「どのように守ってきたのか」ということなどを学んで、それを誇りに思い、自分の言葉で語れるようになってもらいたいです。

ICTや英語教育等の時代に遅れない教育を進める一方で、子供の心の中に何を深く刻めるか、自分というものをしっかりとめさせることができるかが大切です。そして、学びの奥にある深いものを知り、相手に伝えていく。こういった人がこれからの社会に求められていきます。奈良には、そういうことを学べる素材が十分にあることを誇りに思っています。